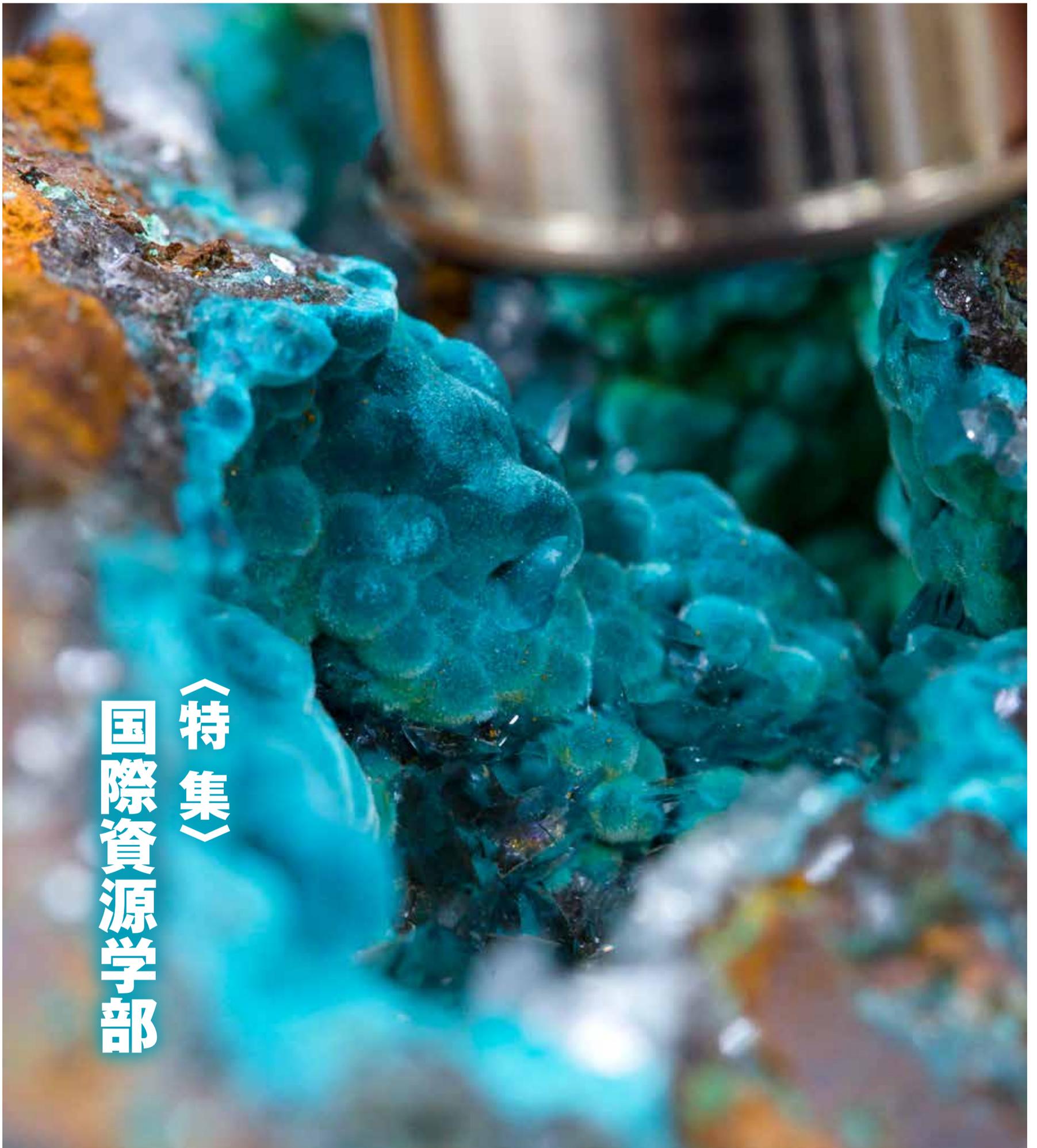




秋田大学広報誌〈アプリーレ〉

Aprire

No. 58
2018

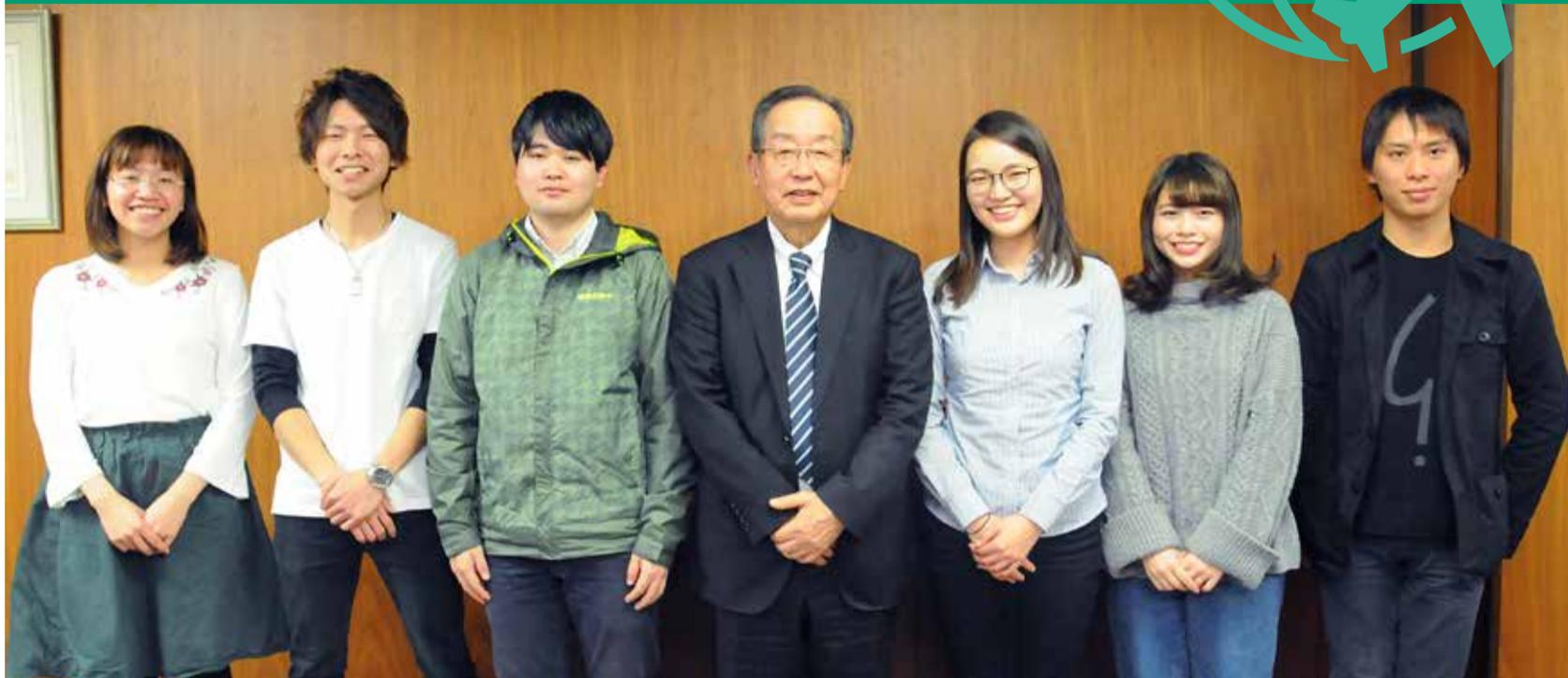


〈特集〉
国際資源学部

特集

国際資源学部を卒業

4年間を振り返り「1期生」が山本文雄学長と懇談



国内唯一の資源学一貫教育を行う国際資源学部は、文理融合カリキュラムにより資源のプロフェッショナルを育てる学部として平成26年に新設。今年3月に初めての卒業生を輩出します。その1期生となる国際資源学部の4年次の学生と山本文雄学長が懇談し、4年間の学生生活などを振り返りました。

学長と学生の懇談会

日時：平成29年11月16日(木)

場所：学長室

参加者：国際資源学部1期生(4年次学生)6名

〈資源政策コース〉山田 遼太さん バヤスガラン ブヤンヒシゲさん

〈資源地球科学コース〉ダン ユン タオ グエンさん 三輪 亘さん

〈資源開発環境コース〉勘山 龍也さん 内館 まどかさん

普段学長と接する機会のない学生たちは、当初とても緊張していましたが、山本学長がユーモアを交えた会話で場を和ませてくれたり、学生たちが互いの共通の思いに頷いたり、すぐに打ち解けた様子で約90分間の懇談が続きました。

この時間、終始笑い声の絶えない「学長室」となりました。懇談の一場面を紹介します。

田大学に新しい学部、そして文系の資源政策コースが開設されるというのを聞きまし。いつか日本に留学したいという気持ちも抱いていましたので、国際資源学部への入学を決めました。

グエン 母国ベトナムは資源国でもあり、私は地下資源に興味がありました。また、私は高校を卒業してから母国で1年間、そして来日してからの日本語の勉強をし、日本の大学への進学を考えていました。そんなときに、国際資源学部が新設されることを知り、自分が資源に関心があったことも重なり、入学を決めました。

三輪 僕は理系出身ですが、歴史にも興味を持っていました。と言っても考古学などは文系の学問なので、理系の分野となる地球の歴史を学びたいと思うようになりました。秋田大学は、資源分野において伝統と歴史がとてもあり、そのような理由から国際資源学部への入学を決めました。

勘山 高校時代の理系の選択科目と受験科目のこともありましたが、その頃、メタンハイドレートが話題になった時期でした。高校の課題研究でこのメタンハイドレートに取り組んでいたこともあり、資源を学べる秋田大学を志望しました。

内館 出身高校はスーパーサイエンスハイスクールの指定校でした。高校時代に資源に関する実験を体験し、そこから資源に興味を抱くようになり、世界共通言語である英語も学びたいと思っていました。理系分野で、そして英語も同時に学べ

ヒシゲ 私は資源に興味を持っていましたが、文系で資源を学べる大学がモンゴルにはありませんでした。そんな時に高校の先生から、秋

山田 自分は、海外に興味があり、そして海外フィールドワークというカリキュラムに関心を持ちました。また、高校生のときにレアメタルについて発表する機会があり、資源について学びたいと考えていたことから、この学部を選びました。

山本学長 私は「学生第二」というスローガンを掲げ、学生さんたちが楽しく充実したキャンパスライフを送ることが出来る学内環境を提供したいと、いつも考えています。卒業生の方々から「秋田大学で学んで良かった」と思ってもらえるようなそんな大学づくりに取り組んでいきたいと思っています。

山田 文理融合で資源学に関して専門的に学ぶことが出来るのは秋田大学だけであり、資源系企業の方からも注目されていると感じます。国際資源学部でしかできない経験をする事ができる点を誇りに思います。

山本学長 私は「学生第二」というスローガンを掲げ、学生さんたちが楽しく充実したキャンパスライフを送ることが出来る学内環境を提供したいと、いつも考えています。卒業生の方々から「秋田大学で学んで良かった」と思ってもらえるようなそんな大学づくりに取り組んでいきたいと思っています。

とという点に魅力を感じたことが志望の動機です。

「秋田大学に入学して良かったと思うことは？」



ヒシゲ 文理融合カリキュラムで鉱山開発について学び、海外資源フィールドワークでは西豪州での資源実習に参加するなど、資源業界への関心がより一層高まりました。自分の学びたいことを身につけることができ、秋田大学に入って本当に良かったと思います。

グエン 私は100年の歴史のある秋田大学国際資源学部に入學し、大変うれしく思っています。学業の面はもちろん、生活の面でも大学の先生や職員の方々に大変お世話になりました。自分が興味を持っている地球科学を習得することができ、また秋田県内だけでなく海外での実習も経験するなど、本当に充実した大学生活を送ることができたと思います。また、大学時代の友達との思い出は一生忘れられないと思います。

三輪 秋田大学で一番誇れる点は、日本で唯一資源学全般について学べる大学であるということです。国際資源学部は秋田鉱山専門学校からの100年の歴史を引き継ぐ伝統と歴史があります。そのため、学年が上がるにつれて、徐々に先輩たちが残していった研究や論文などを読み、その重みを感じています。

勳山 秋田大学入學後、エネルギー資源をはじめ、あらゆる形の資源の開発・利用についての基礎を学び、海外資源フィールドワークを通して自身の専攻分野を現場の雰囲気を感じながら学ぶことができ、非常に良い経験をする事ができました。海外で研修を必ず行うことができる点は強みだと思います。

内館 秋田大学では積極性

や、コミュニケーション能力を身につけることができたと思います。授業ではプレゼンテーションやグループディスカッションがよくあったので、自分でしっかりと意見を述べたなければならぬし、他の学生とも協力しなければならぬ機会も多くありました。積極的にコミュニケーションの力が高い秋田大学の卒業生や修了生は企業からの評価も高く、外部機関による平成28年度の大学ランキングでも、上場企業から極めて高い評価をもらいました。これは、秋田大学で培われた力だと思えますので、このように評価していただいたことに誇りに思います。

海外フィールドワークの思い出は？

山本学長 全国の大学で『資源』を網羅的に学べるところは秋田大学の国際資源学部だけであり、秋田大学として特色のある学部です。海外資源フィールドワークなど特徴的なカリキュラムがあるということも特色の一つですが、皆さんは、どこの国に行かれましたか。感想等も教えてください。自分の成長に繋がるものなどあったとしたらぜひ紹介して下さい。

山田 スーダンに行きました。語学留学とは違い、現地の村での調査や企業への訪問など、一人では決して経験することができないことを体験することができました。

ヒシゲ オーストラリアに行きました。忘れることのできない素晴らしい経験でした。私は日系鉱山企業や世界有数の鉱山会社、マインिंगサイトなどを見学し研修を受けました。現場を自分の目で

見て、耳で聞き、鉱山開発の規模に感服することができて大変勉強になりました(資源開発は「百聞は一見にしかず」だということを実感しました)。

グエン 私はフィリピンの銅鉱山に行きました。露天掘りや坑内、製錬場などの見学ができました。今まで勉強してきた鉱山のことを現場で実感することができ、また鉱山での仕事も体験して、大変有意義なフィールドワークだったと思います。その経験から、将来鉱山で働きたいという希望がふれてきました。

三輪 南アフリカ共和国に行きました。日本では実際に稼働している鉱山自体が少なく、さらに世界的に見ても有力な南アフリカの白金鉱山で実習を行うことができたのは、非常に価値のあるものでした。これも秋田大学が資源系大学として研究・教育の実績を積み重ねた結果であり、今後もこういう海外実習は続けてほしいです。また、日本では感じることもできない社会の空気を感じ、実習以外でも勉強になることが多く、普段自分たちの持っていた価値観や先入観というものを考え直す良い機会だったと思います。

勳山 アメリカ・ヒューストンに位置する日本を代表する石油開発会社で研修を行いました。現地では石油開発の基礎を学ぶとともに、実際の石油開発現場や海上リグ(採掘施設)を見学しました。また、海外での文化の違い、特に食生活では苦労するところもありましたが、テキサスで最大のショッピングモールを毎日見てまわったり、NASAに行くことができたなど、非常に有意義な時間を過ごすことができました。

内館 スウェーデンです。現地の大学の方とは一緒に実験をしてレポートをつくり、自分でプレゼンテーションをしました。実験はもちろん専門用語を用いながら行われたので、なかなか英語の意味がわからず苦戦しました。自

分の英語力のなさに気づき、もつと勉強しようという向上心に繋がりました。また、スウェーデン人は少し控えめな方が多く、わからないことがあれば自分から積極的に質問しなければならなかったのが、研修後には外国人の方と物怖しせず話すことができました。また、

現地の鉱山や製錬所は日本では見られない規模のものでしたので、圧倒された感動がありました。とても良い経験になりました。

将来の目標は？

山本学長 学長に就任してから、学生さんとのように懇談する機会がありませんでしたので、今日は皆さんのお話が聞けて大変有意義な時間となりました。1期生の皆さんのこれからの活躍は、産業界などから非常に注目されることとなります。どうか誇りを持って飛び立って行ってください。

最後に、皆さんの将来の目標を聞かせて下さい。

山田 大学生活を通してお世話になった東北に、仕事を通じて恩返しをしていきたいです。また、国際資源学部の1期生として、秋田大学の国際資源学部の魅力を広めたいと思います。

ヒシゲ 将来、母国を始めとする発展途上資源国と日本との架け橋となつて、さらなる経済発展に繋げ、多くの人々の生活向上に貢献できるような人材になるよう努力していきたいと思えます。

グエン 私は4月から日本で就職することになっていきます。仕事に早く慣れることができるように頑張りたいと思っています。また、チャンスがあれば、母国と日本のかけ橋となつて活躍したいです。将来社会に役立つ人間になろうと努力していきます。

三輪 秋田大学で得た知識や思考力、論理性を活かせる企業に就職し、社会の最前線で活躍していける人材になりたいと思っています。

たいと思っています。

勳山 数少ない純国産のエネルギー資源である地熱開発を普及させ、安定的で環境にクリーンなエネルギー供給を行っていく一員として社会貢献したいと考えています。

内館 鉄鋼業界の技術職で女性というのは珍しいことだと思いますが、女性ならではの細やかな視点を生かして会社に貢献し、日本の循環型社会形成の一助になることが目標です。また、もっと女性の働きやすい環境をつくれるように現場からも提案して、女性の働き方にも良い影響を与えることができるようになりたいです。

山本学長 皆さんにはどうか、学生時代の絆を大切にしてくださいと思います。今日はありがとうございました。

懇談の話題はこのほか、カリキュラムのことから学食のメニューのことまで多岐に渡りました。秋田の印象として「街が静かで淋しい気持ちも最初は抱いたが、周囲の人の温かさに触れて過ごすことができた」というような言葉も寄せられました。

一方で、実験設備のこと、学生生活のことなど大学の環境改善に向けた前向きかつ貴重な提案もありました。山本学長は、学生の意見を身近に感じ取り、今後の大学運営に活かしていきたいと話しました。

1期生の皆さんの、国際資源学部そして大学への熱い思いが伝わる懇談会でした。将来は世界と秋田大学の架け橋となつて活躍したいと思えます。





懇談会に参加された方々から、高校生の皆さんへのメッセージをいただきました。

勘山 龍也 さん



兵庫県立西宮高等学校出身
資源開発環境コース4年次
進路：秋田大学大学院進学

秋田大学国際資源学部資源開発環境コースではエネルギー資源をはじめ、あらゆる資源開発工学の基礎を学ぶことができ、フィールドワークにて現場の雰囲気を感じることができます。また、個性豊かな教授陣とは真面目な話はもちろん、他愛もない話まで気軽にできる関係を築けるとと思います。ともに日本のエネルギー事情を一変させましょう。

ダン ユン タオ グェン さん



ファン・チャウ・チン高等学校
(ベトナム)出身
資源地球科学コース4年次
進路：就職内定
(業種：鉱業 日本)

大学の生活は楽しいです。自分が興味を持っていることについて勉強ができることもより一層楽しいです。在学中に国内だけでなく国外でたくさんの経験を積めるので、充実した勉強ができると思います。高校生の皆さん、ぜひ皆さんの生活を支えている「資源」に関心をもって秋田大学国際資源学部に入學していただけたら嬉しいです。

山田 遼太 さん



栃木県立宇都宮北高等学校出身
資源政策コース4年次
進路：就職内定(業種：電力)

資源・エネルギー問題は日本においても重要な分野であり、この分野で活躍する人材を生み出すことは日本の将来に関わることです。国際資源学部はその資源分野に精通する先生方が多数在籍し、他の大学や学部では学ぶことができない資源に関する学問を幅広く学ぶことができる国内唯一の学部です。少しでも興味があったら、ぜひ秋田大学のこと、国際資源学部のことを調べてみてください。

内館 まどか さん



岩手県立盛岡第三高等学校出身
資源開発環境コース4年次
進路：就職内定(業種：鉱業)

昔からの歴史がある秋田大学の資源に関する専門性は、どこの大学にも負けないと思います。座学だけでなくフィールドワークもあり、海外研修でもなかなか普通ではできないような経験をさせていただくことができ、たくさんのことを学べます。また、教授は資源業界のスペシャリストが多く、頼れる方がいっぱいいます。資源なしでは私たち人間は生きることができません！少しでもこの学部に興味があればぜひいらしてください！

三輪 亘 さん



渋谷教育学園幕張高等学校出身
資源地球科学コース4年次
進路：秋田大学大学院進学

大学に入るというのは一つの通過点に過ぎず、入学後にどういった環境でどのような勉強をし、どんな自分になりたいかとイメージすることが大事であると思います。今は具体性がなくても、抽象的なぼんやりとした夢でもそれを持っていると、大学入学後に実感するものがだいぶ変わるでしょう。私も最初は抽象的なものでしたが、一つひとつの選択肢を自調自考し、常に前向きな選択をすればどんな道も自ずと開けると思えるようになりました。

バイスガラン ブヤンヒシゲ さん



新モンゴル高等学校
(モンゴル)出身
資源政策コース4年次
進路：就職内定
(業種：鉱業 日本)

国際資源学部では世界が直面している資源問題、資源の開発からリサイクル、環境保全や資源経済、鉱業法も含む理系と文系の全体を基礎から学ぶことができます。座学では学ぶことのできない、資源国や開発地域において世界規模で活躍する資源系企業の業務内容などについて学ぶことができる海外資源実習もあり、充実した学生生活を送ることができると思います。将来資源業界で働きたいと思っている方がいれば、ぜひ国際資源学部に入って様々なことに自ら挑戦してほしいです。

国際資源学部卒業予定者の就職内定状況(平成29年10月末現在)	《資源政策コース》就職希望者 就職内定率	91.7%	《資源開発環境コース》就職希望者 就職内定率	95%
	《資源地球科学コース》就職希望者 就職内定率	100%	コース全体	94.9%

秋田大学生協は秋田大学生を応援します
秋田大学生の学生生活を日常的にサポートするのが大学生協です！

各店舗の営業時間もここからチェック！
秋田大学生協HP

つながる元気、ときめきキャンパス。
UNIV. CO-OP

秋田大学生協 ☎ 0120-327-141

秋田のニュースを読むならさきがけ電子版!!
ウェブコースができました!!

Sコース(1日1本) 無料
Mコース(1日10本) 月額540円
Lコース(1日30本) 月額972円

まずは無料コースに登録を!!

秋田朝新報 電子版

http://www.sakigake.jp/ さきがけ 検索

秋田県厚生農業協同組合連合会

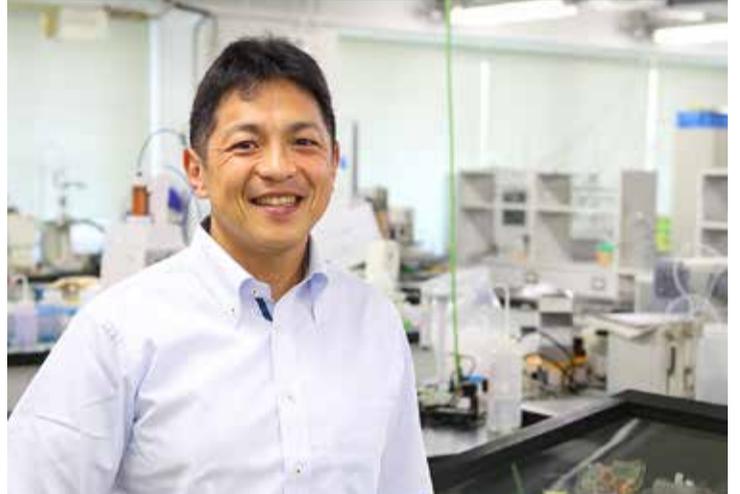
能代厚生医療センター かつの厚生病院
湖東厚生病院 北秋田市民病院(指定管理者)
秋田厚生医療センター 大曲厚生医療センター
由利組合総合病院 平鹿総合病院
雄勝中央病院

JA秋田厚生連 検索

教員紹介

国際資源学部

常に変わりゆく時代と ニーズに応える資源開発



大学院国際資源学研究科 資源開発環境学専攻

柴山 敦 教授

多岐に渡る 資源分離の世界

柴山教授の資源処理工学研究室では、その名の通り「資源処理に関する研究が行われています。天然鉱石からの資源分離・回収はもちろんのこと、使用済みの電化製品やパソコン、自動車、スマートフォン等を取りサイクルし、資源を再生させることは重要です。柴山教授は主に金属を回収対象とし、銅や鉄などの比較的身近な金属から、レアメタル等の稀少な金属まで、資源を有効に使い循環させるための研究開発を進めています。

金属はそのまま地下に眠っているわけではなく、さまざまな形で存在しています。ほとんどの金属は、鉱石の中に鉱物として含まれているため、鉱物が混ざりあった状態から対象の金属だけを分離して取り出す必要があります。抽出するためには、まず鉱石を細かく粉砕し、分けやすくします。次に比重(密度)の差、粒子の表面性質の違い、電気を通しやすさ、磁石へのくつきやすさなど物性の差を利用して、取り出した金属だけを集めていきます。

これら物理的な方法以外にも、化学的に純度を高める方法があります。粉末状の粉砕後の鉱石を酸やアルカリを使った溶液に混ぜ、金属を直接抽出します。液体を媒体として用いることから湿式分離と呼ばれるのですが、溶液にすることによって、金属の純度を高めることが可能になります。柴山教授は学生の頃から、この物理選別や湿式分離に興味があり、レアメタルの回収やリサイクルに利用する

とともに、長く研究に取り組んできたそうです。

廃棄物処理と 再資源化

ごみの中に眠る資源



レアメタルを含む鉱石や研究対象とした各種リサイクル原料

廃棄物処理と再資源化は表と裏の要素があります。廃棄物とは、広義で見れば「ごみ」のことですが、私たちが日常的に出すごみにも、再資源化が可能なた物が含まれていることがあります。また、物によつては環境に害のないように処理しなければなりません。柴山教授は、リサイクルはもちろんのこと、捨てるものから有害な物質を取り除き、環境に優しくごみを捨てる必要だと言います。例えば、ごみを焼却処分した後に出てくる灰にも環境に害を与えない処理を施

し、最終的に安全な処分を行う必要があります。

「未来の先を見据えた資源循環」

一方、資源を循環させたり、一度掘ったものを長く使うことで地球から採掘する鉱石の量を減らすことができます。地球に優しく、限りある資源を有効に使うことにつながります。さらに次の視点も忘れてはなりません。鉱山で有用金属を取り出した後の廃石は、鉱山の処分場のような場所に堆積されます。鉱石によって、有害なものを含む可能性があるので、それらを放置することはせず、しっかりと管理し、環境対策していくことが重要だと柴山教授は説明します。

「今は廃石を堆積させているという方法をとっていますが、その方法がベストかどうかはわかりません。むしろ、廃石の発生を極力減らすという生産技術の改善、開発も必要です。材料を作るときに必ずごみが出ますよね。鉱山も同様で、鉱石を分けると残るものが残ります。捨てることはやむを得ないかもしれませんが、『捨てた後の事は知らない』で済ますことは許されません。地球環境に優しい対策や技術開発を将来に渡って続けていくことが必要です。」

さらに、これまでの資源開発では純度が高く、生産しやすい鉱石を採掘してきました。ところが近年では、低品位の鉱石や不純物を多く含む鉱石が増え、簡単に捨てることができなくなってきたそうです。今の技術でこれから30年後の未来を見据えた技術開発が必要だと柴山教授は言います。例えば、これからは電気自動車の増加が予想されますが、そうなるのが、もうすぐ大量の銅が必要になります。開発すればするほど、ごみが出てしまうという矛盾を抱えながら、資源の持続性と資源循環のための技術を確立することが必要です。その研究を進めることが柴山教授らの使命と言えます。

私たちの生活に、今や電気は欠かせません。宇宙から夜の地球を眺めると、日本列島の形がくつきり浮かび上がるほど、日本はたくさん電気を使っています。この大切な電気を届けてくれる電線は「銅」でできています。銅は私たちの生活を支えるとても重要な金属ですが、最近では不純物を多く含む鉱石が増え、低品位化が進んでいます。柴山教授いわく、これからずっと銅を供給するためには、天然鉱石を生産・利用するだけではなく、リサイクルを促進し、両立させていくことが必要だと力を込めて説明します。また、時代が変われば使われる金属も変わるため、その変化に耐えうる生産技術を確認しておくかなければなりません。例を挙げると、かつての携帯電話に内蔵さ

学問への興味と 芽生えを大切に



銅を含む鉱石の一例 ~この中から銅を効率的に取り出します~

れたコンデンサ(電子素子の一種)は多くて1000~2000個程度でしたが、今のスマートフォンには400~5000個程度が使われ、金属の使用量も多くなっています。画面が液晶に変わり、様々な機能が増えられたことで、それまで使われていなかった金属が使われるようになりました。進化していく時代に適応したりリサイクルや生産方法、あるいはその先を見越した技術が必要だと言えます。

時代によってかわる、 金属の需要

柴山教授自身は、はじめから資源学を学びたいと思っていたわけではなく、高校生の頃は機械や電気、航空工学に関心があり、その道に進みたいと考えていました。しかし、自動車などの工業製品の元(原料)が地下に眠る鉱石の中にある事を知り、エネルギーや資源への興味と関心が芽生え、資源系学科への進学を決めたそうです。

男子バスケットボール部



練習風景

- 主 将:鈴木 駿
(理工学部システムデザイン
工学科 3年次)
- 所属人数:33人
- 活動日時:月曜日 16:00~21:00
火曜日 18:30~21:00
木曜日 16:00~18:30
土曜日 14:00~17:00
日曜日 13:00~16:00
- 活動場所:大体育館

初の1部リーグ昇格を果たす

秋田大学の体育館に響く「キュッ、キュッ、キュッ」というバスケットシューズの音。「ダム、ダム、ダム」とボールが弾む軽快でリズムカルな音。「ピーッ」というホイッスルの高音とともに真剣な表情で取り組みながらも、休憩時には流れる汗を拭きながら、明るい笑い声が聞こえてくる。いつもこのような音や声に囲まれて練習に励んでいる男子バスケットボール部(以下「男バス部」)は、今シーズンの東北大学バスケットボールリーグの1部と2部の入れ替え戦に勝利し、創部以来初となる1部リーグ昇格を自分たちの力で勝ち取りました。東北大学バスケットボールリーグ男子の部は1部リーグに6チーム、2部リーグには19チームが参戦しています。さらに2部リーグは、北奥羽地区8チームと南奥羽地区11チームに分かれ、それぞれの地区で1位となったチーム同士が対戦し、最終的な2部リーグの順位が決定されます。2部リーグでの順位は1部リーグとの入れ替え戦に反映され、2部1位が1部6位と、2部2位が1部5位と対戦し、それぞれ勝利したチームが1部リーグへの残留または昇格となります。

男バス部は昨季も入れ替え戦まで駒を進めていましたが、惜しくも敗れたため、1部昇格がかなわず悔しい思いをしていました。

しかし、今シーズンは見事その雪辱を果たし、晴れて来季の1部リーグ参戦を決め、歓喜の声に包まれました。これまで一度も1部リーグに昇格したことがない男バス部にとって、昇格を決めた入れ替え戦での試合終了のホイッスルは、今まで何度も聞いていたホイッスル音とは全く違うものだったのではないのでしょうか。主将の鈴木駿さんも「試合が終わった瞬間は実感が湧いてきませんでした。昨季も負けていましたし、本当に勝ったのかと…」と当時の心境を教えてくださいました。



主将の鈴木さん

そして、来季の目標について「主力が抜けてしまい、新しいチーム編成で戦うこととなりますが、先輩たちが頑張っ昇格した1部リーグなのでぜひとも残留したい」「個人的には1試合に30点以上取ることを目指したい」とその意気込みを語ってくれました。

チームの特徴は「約束事」を守り「走り勝つ」バスケット

バスケットボールは、一般的に身長の高い選手が多いチームが有利です。しかし、男バス部は他大学のチームに比べて、身長の高い選手や能力の高い選手が多いわけではありません。その不利な点を補うために考えたのが、チーム内で決めた「ディフェンスの約束事」「リバウンドを頑張ること」等をしっかり守りつつ、相手チームに「走り勝つ」バスケットのことで。常にオフェンス・ディフェンス時ともに相手チームよりも「走る」ことを目指し、全員で素早く攻撃し、全員がいち早く自陣に戻って守る。そのためにはチーム全員が高い持久力を保つ必要があります。

部員全員で話し合い練習メニューを考案

そのチームとして欠かすことのできない持久力を養うためには、とても厳しい練習メニューをこなさなければなりません。男バス部では練習メニューを自分たちで意見を出し合いながら決めていくそうです。ミーティングの中で自分たちの現状を確認しながら、その時点で何が不足しているかを判断して、フィジカルを高める練習、スキルをアップさせる練習をこなし、練習後には疲れて足が動かなくなることもあるそうです。

仲の良い和やかな雰囲気とは一変し、練習は真剣そのもの。取材したこの日も、身体をめいっぱい動かし基礎練習や実践形式のハードなメニューをこなしていました。



練習前の挨拶

H29年度の成績

第40回東北大学バスケットボールリーグ新人大会			
第1試合	vs青森大学	85対75	
第2試合	vs富士大学	54対83	
第38回北奥羽地区大学春季バスケットボール大会			
第1試合	vs岩手県立大学	109対49	
第2試合	vs青森大学	82対64	
第3試合	vs富士大学	72対86	
第4試合	vs青森中央学院大学	100対83	第3位
第68回東北地区大学体育大会			
第1試合	vs東北大学	77対86	
第18回東北大学バスケットボールリーグ二部北奥羽トーナメント			
第1試合	vsノースアジア大学	145対34	
第2試合	vs八戸学院大学	118対59	
第3試合	vs青森大学	100対90	第1位
第18回東北大学バスケットボールリーグ入れ替え戦			
第1試合	vs東北大学	84対90	
第2試合	vs福島大学	91対85	一部昇格

来季への第一歩である新人戦に向けて



新人戦代表の山際さん

男バス部は来季から1部リーグへの参戦にあたり、東北大学バスケットボール新人大会(平成29年12月開催)をその試金石として位置づけています。現1・2年生を主体として本大会に参加し、その結果を踏まえて来季1部リーグ残留という大きな目標に向かって進もうとしています。新人戦の代表を務める山際周汰さんは、「新人大会では2勝することを目標にして頑張りたい」と大会への抱負を話してくれました。

高校生へのメッセージ

現在の男バス部員は皆バスケットボール経験者です。バスケットを始めた時期は小学3年生から高校生までと様々なので、初心者の方でも大丈夫です。今は卒業されてしまいましたが、初心者で入部された先輩もいましたので、全く心配ありません。秋田大学に入部されたら、ぜひ一緒にバスケットをしましょう。



僕らの課外活動

ボランティアサークル V-net



○代 表:青木 辰頼(国際資源学部 3年次)
○所 属 人 数:48人

サークルの歴史

平成10年に発足した医学部の公認サークル「ボランティアネット」の流れを汲み、平成20年に医学部から移管、大学全体の公認サークルとして結成されました。福祉施設等を定期的に訪問し、子どもたちの学習補助や入居者とのゲームやスポーツなどの交流を行っております。サークルの前身は、医学部設立(昭和45年)頃から活動してきた「社会衛生部(サークル)」と言われています。このようにV-netは長い歴史のある学生ボランティアサークルです。

こんな活動をしています

V-netはボランティア活動を通じた成長・発見を活動目標としており、年間を通じて近隣の福祉施設等を定期的に訪問し、次のような交流を行っています。また、大学周辺や海岸などでの「早朝ゴミ拾い」など地域奉仕活動も行っています。

- 車いすダンス
- 学習ボランティア
- 遊びボランティア
- 喫茶ボランティア
- ショートステイボランティア
- 盲導犬ボランティア
- オリブ園ボランティア
- 筋ジスボランティア

活動例



●車いすダンス
車いすダンスは、立って踊るスタンディングパートナーが車いす使用者をリードして踊る社交ダンス。



●かりんとう教室
秋田県LD・AD/HD親の会(アイシユタインの会)において、話し合いなどを行っている間、「かりんとう教室」としてV-netの学生が子どもたちと遊ぶなどの活動をしています。



『笑顔』のコミュニケーション

「お年寄りや子どもたちとのコミュニケーションが多いので『笑顔』で話しかけることを心掛けています」と、V-net副部長の山崎紗知さん(教育文化学部3年次)。山崎さんは教員を目指していますが、ボランティア活動を通じて『教育』に対する価値観を学ぶことができたと言います。部長の青木辰頼さん(国際資源学部3年次)は、「お年寄りの方々、子どもたちの『笑顔』から元気をわけてもらっています。皆さんに会いに行くのがすごく楽しみなんです」と話してくれました。

国際ソロプチミスト秋田から「シグマ・ソサエティ」として認定されました

V-netは、教育機関に属するクラブ・サークルが行う社会奉仕活動の支援などを実施しているNGO「国際ソロプチミスト秋田」から、スポンサー支援対象となる「シグマ・ソサエティ」として認定され、11月28日に認証式が行われました。

「国際ソロプチミスト」は、実業界において管理職や専門職に就いている女性で構成される世界的な非政府組織。国際理解と世界友好を通じ全人類の人権・女性の地位向上等を求め努力することを目的とし、地方・国内・国際社会への奉仕に取り組んでいます。

V-netが認定を受けた「シグマ・ソサエティ」とは、国際ソロプチミストが奉仕精神の育成を目的として、社会奉仕活動に従事する大学生等のクラブ・サークルを対象に行うスポンサー支援の認証制度で、奉仕の志をもつ青少年に活動の場を提供するとともに、将来の良き市民、指導者としての能力を伸ばす機会を与えるなどの支援を行うものです。

認証式には、本学の山本学長が来賓として出席し、「学生団体の活動が、外部から大きく評価されたことは大変嬉しく、誇りに思う。今回の認証を弾みとして、今後も団体として熱意を持ってボランティア活動に取り組んでほしい」と挨拶しました。



認定証を受けた部長の青木さん



認証にあたり宣誓を行うメンバー(奥から2人目が副部長の山崎さん、手前が部長の青木さん)

顧問からメッセージ(教育文化学部 藤井慶博 教授)

V-netは、医学部の公認サークル「ボランティアネット」として平成10年に発足し、平成20年には大学全体の公認サークルとして結成された歴史のあるサークルです。各種福祉施設、車椅子ダンスサークル、地域など活動の場や種類は様々です。ボランティアは「ともに活動する」「お手伝いさせていただく」活動を通して、人としての生き方や社会のあり方を学ばせていただいている貴重な機会です。これまでの地道な活動が認められ、このたび国際ソロ



プチミスト秋田から「シグマ・ソサエティ」として認定され、ご支援いただくことになりました。社会的に認められたことを誇らしく思うとともに、今後の充実に大いに期待しています。関心のある方はどうぞ門をたたいてください。

鉱業博物館は、地球と資源に関する様々な分野の資料や標本を扱う秋田大学大学院国際資源学研究所の附属施設です。秋田県は鉱産資源に恵まれ、古くから鉱山開発が進められてきた地域です。県内各地には黒鉄鉱床や鉄脈、鉄床などの金属鉱床が多数存在します。また、日本海沿岸部は国内有数の油田地帯として知られています。これらの地下資源は、長年にわたる日本の近代化や高度成長を支えてきました。

鉱業博物館の沿革は、鉱山技術者養成のために1910年に設立された秋田鉱山専門学校列品室に始まります。その後、新制大学発足当時の鉱山博物館を経て、1961年に現在の鉱業博物館が建設されました。創立以来100年にわたって研究や教育のために収集された地質・鉱工業関係の資料は膨大な数にのぼります。

鉱業博物館は、これらを後世に伝えるために適切な管理下で保存し、いつでも学術研究や教育に利用できるように整理を進めています。また、秋田大学の活動を地域社会にわかりやすく伝える役割も果たしています。常時公開中の展示棟では、様々な色と形の鉱物・鉱石、珍しい岩石や化石を多数展示しているほか、資源開発の流れと鉱山技術の根幹部分を実機と精密模型でわかりやすく解説しています。また、期間限定の特別展や連携展、開放講座を通して、大学の最新の研究や幅広い学術分野の成果を紹介しています。

私たち人間の営みは、地球からの恵みを受容することで維持されています。人類の歴史は、地下資源への依存度を高めていった歴史であるとも言えます。そして近年、鉱物資源やエネルギー資源の消費は世界的に加速し、その安定的確保や有効利用への関心が高まっていくほど高まっています。また、開発に伴う様々な問題にどのように対処していくのかは、私たちが将来にわたって取り組まなければならない大きな課題です。鉱業博物館の展示を通じて、私たちの暮らしの舞台である地球と大切な恵みのことをより深く知り、人間活動と地球との関係について考えるきっかけになれば幸いです。鉱業博物館にぜひ足をお運びください。

秋大 キャンパス案内

鉱業博物館



Pick Up

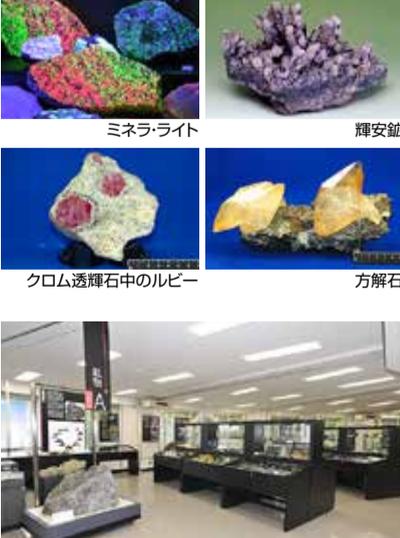
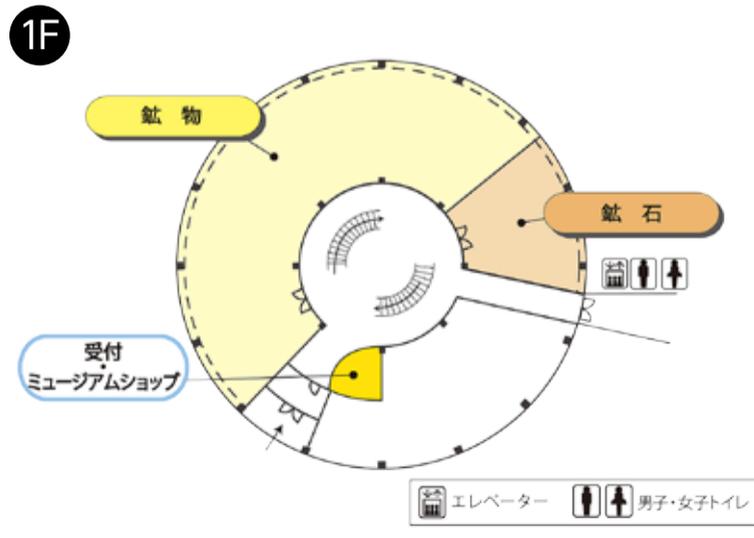
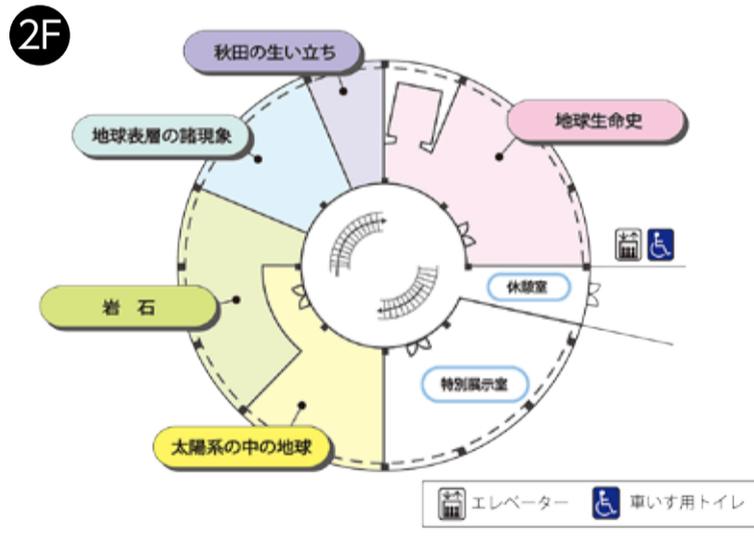
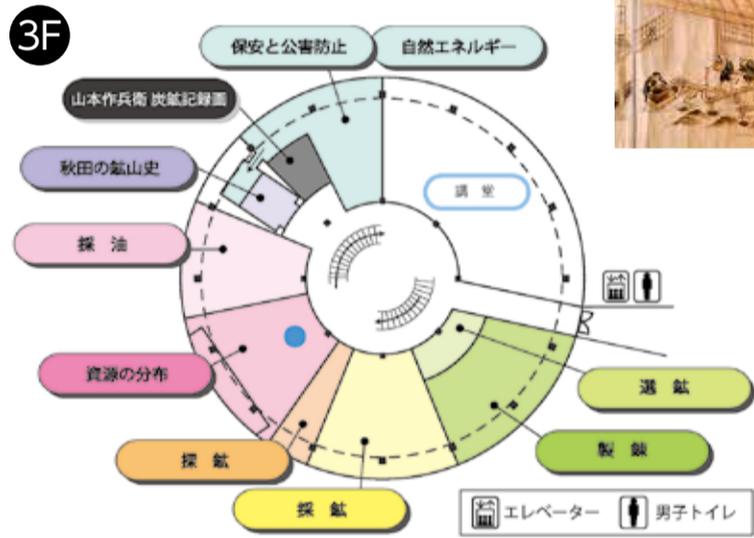
Googleストリートビューサービスにて鉱業博物館内を公開しております。館内の1階から3階までの展示棟内を、高精密な360度のパノラマ写真で見渡せるようになりました。パソコンやスマートフォンの画面から簡単に見ることができ、館内のバーチャル体験や、ご見学前の下見などにご活用ください。

※ストリートビューは、Googleが提供するGoogleマップの機能の一つで、街中や観光名所、大学内などをその場にいるかのように360度のパノラマ写真でご覧頂けるサービスです。

Googleマップで、「鉱業博物館」と検索していただくか、こちらのQRコードからご覧いただくことができます。



- ご利用案内**
- 開館時間：9:00～16:00
 - 休館日：年末年始(12月26日～翌年1月5日) 12月～2月の日曜日と祝日
 - 入館料：大人100円 高校生以下無料
 - 館内案内：サイエンスボランティアによる館内案内を無料で行っています。一週間前までにご予約をお願いします。



リレーエッセイ 第6回

秋田大学に期待すること

秋田大学経営協議会学外委員の皆さんから秋田大学に対するメッセージを寄せていただいております。

東北大学名誉教授 吉本 高志



私は、秋田市土崎港の出身です。土崎小学校、土崎中学校、そして秋田高校とそれぞれ地元、秋田で教育を受けました。

秋田大学との繋がりの中で、歴代の学長は、三浦亮学長とは、我が国に於ける大学の三大改革と言われている、国立大学法人化の前後の大変な難局を共有した、まさに「戦友」でありました。現在の山本文雄学長までの次の3代の学長の時代には、中断はありましたが、経営協議会の一員としてお付き合い頂きました。一方、私の専門は脳外科ですが、後に秋田大学助教授、そして厚生連秋田組合総合病院長を務めた坂本哲也先生とは、東北大学で共に勉強した仲でした。現在の秋田大学脳外科清水教授の前任の故溝井和夫先生は、私の教授時代の助教授で、公私ともに大変面倒を掛けました。61歳で逝去された時は慙愧に堪えませんでした。

私は、元東北大学総長としての自分の経験、更に、

我が国の高等教育における問題山積の中で大学の立ち位置を考えますと、秋田大学は、山本文雄学長を長とした役員会を中心に、大学の教職員は大変努力し、良い仕事をし、そして結果を出していると思っております。詳細は避けませんが、国際資源学部の新設、地域との連携、附属病院の経営安定化と病院機能充実、等々です。

国立大学法人は、現在、中期目標、中期計画の二期、二期を終え、これから12年間の実績をもとに、平成28年度より平成33年度までの第三期目の6年間に向かいつつあります。

秋田大学は基本理念に、1、国際的水準の教育・研究、2、地域振興と地球規模の課題の解決、3、国内外で活躍する有為な人材の育成、を挙げております。いずれも大変に適切な、また大きな課題であります。私は、この理念の更なる具現化には、歴史と伝統、秋田師範学校、秋田鉱山専門学校などを母体とした大

学が設置された事を、秋田大学の原点として尊重すること。教職員全員は、秋田大学に優れた学生を多く集める努力を、そして、それぞれ入学後の教育に全智全能を傾けること。地域貢献は、県内の主な第一次産業に密着した教育、研究の実績を作りつつも、地域貢献は、実際の大学教育の中から自然に生まれてくるのが重要である、などを感じております。

司馬遼太郎氏の文春文庫に「菜の花の沖」があります。18世紀末の稀代の豪商高田屋嘉兵衛が、自身の設計による初めての巨大な千五百石積の辰悦丸を建造したのは、まさに秋田の地でした。「辰悦丸が、輝くように白い帆に風を受けて土崎を後にした時の喜びは、全員が終生わすれられなかった」

私は秋田の海が大好きです。経営協議会の末席にあるのは、地元への「愛着」であると思っております。秋田大学の益々のご発展を心から祈念いたします。

秋田大学は基本理念に、1、国際的水準の教育・研究、2、地域振興と地球規模の課題の解決、3、国内外で活躍する有為な人材の育成、を挙げております。いずれも大変に適切な、また大きな課題であります。私は、この理念の更なる具現化には、歴史と伝統、秋田師範学校、秋田鉱山専門学校などを母体とした大

都市鉱山から生まれる新たな資源を開発し地域再生を支援する「あきたアーバンマイン開発マイスター養成コース」

第6期生募集

秋田県における環境・リサイクル産業を推進し、環境教育などに貢献できる人材の養成を目的とした学校教育法に基づく秋田大学の履修証明プログラムです。

環境・リサイクルに関する講義から、県内及び国内外の社会・経済情勢まで、その分野の専門家による講義(毎月2回、土曜日)を受けることができます。また、秋田県内における環境・リサイクル産業に関わる現況や課題を理解するため、県内のリサイクル関連企業や施設を見学するフィールド研修(6、9、10月の3回、平日を予定)を実施し、担当教員の指導のもとに課題研究を行います。

本コースの修了者に対しては、教育プログラムの修了を認める「履修証明書」を交付し、併せて秋田大学長と秋田県知事の連名による「アーバンマイン開発マイスター」の称号を授与します。



平成29年度フィールド研修の様子

【募集期間】平成30年1月9日(火)～2月7日(水)
【募集人員】10名程度
【受講料】30,000円(秋田大学の学生は無料)
【書類選考】平成30年2月中旬
【合格発表】平成30年3月6日(火)

【お問い合わせ・資料請求先】
●あきたアーバンマイン開発マイスター養成コース事務局(大学院理工学研究科事務部内)
●TEL: 018-889-2451 / FAX: 018-889-2300
●E-mail: urban@jimu.akita-u.ac.jp



男鹿半島は
いいとこだあ
空気はうめえし
水っつもうめえし
武田のとうふもうめえなあ
やっぱり
男鹿はいいとこだあ

武田のとうふ
秋田県男鹿市男鹿中山町下芋の沢20番地の10
TEL 0185-33-2505 FAX 0185-33-3531

Kashiyama Vacuum Solutions



真空ポンプで世界 No.1を目指す!

樫山工業株式会社

〒385-8511 長野県佐久市根々井 1-1 TEL: 0267-67-3311
http://www.kashiyama.com info@kashiyama.com

ホームページで新卒採用エントリー受付中

豊かな自然を引き継ぎ
成長していく会社でありたい。

雄勝セラミックスは、創業以来たずさわる電子部品製造のノウハウと、未来に向けてICT技術と地域の自然を融合させて事業を推進しております。

事業内容

◆電子部品製造加工 ◆情報システム開発 ◆食品製造販売

雄勝セラミックス株式会社
OGACHI Ceramics CO.,LTD

〒019-0203
秋田県湯沢市寺沢字本郷82-1
Tel 0183-52-4343 Fax 0183-52-4348
http://www.ock.co.jp/

NEWS & TOPICS

ニュース&トピックス

2017.10. >>>2017.11.

OCTOBER

学長らがベラルーシ医科大学などを訪問

10月23日から25日の期間、山本文雄学長らは、大学間学術交流協定校のベラルーシ医科大学(Belarusian State Medical University) (以下「BSMU」)などを訪問し、シコルスキー学長らと今後の交流に関する意見交換を行いました。

秋田大学とBSMUは、ソビエト連邦が崩壊した1991年より若手医師の交流を始め、2004年に医学研究の分野における連携協定を結びました。その後も、心臓血管学や循環器学の領域を中心に、研究者や若手医師を毎年、相互に受け入れるなど、活発な交流を行っています。

BSMUではシコルスキー学長が、山本学長と尾野恭一大学院医学系研究科長の訪問に対し歓迎の挨拶を述べるとともに、26年前に秋田大学に留学していたというミトコフ

スカヤ教授からは、25年以上継続されているこれまでの両大学の交流の状況などについて説明がありました。山本学長は挨拶の中で「これまで長く続いた交流をファーストステップととらえ、今後は互いの大学の優れているものを出し合い、研究面でのような応用ができるかなどを一緒に考えていきたい」と述べました。

今回の訪問では、在ベラルーシ共和国日本大使館徳永博基大使とともにベラルーシ保健省を訪れ、マラシコ大臣に表敬する機会にも恵まれました。大臣からは、秋田大学のBSMUに対するこれまでの貢献に対する感謝とともに、両大学の今後の交流発展に期待を寄せる言葉をいただきました。また、徳永大使からは「日本とベラルーシ共和国の外交関係が樹立したのは、ソ連崩壊後の1992年だが、秋田大学とBSMUとの交流はそれ以前に始まっており、歴史的に見ても素晴らしい交流関係である」と、両大学の活動を賛辞する言葉がありました。

BSMUでは、山本学長と尾野研究科長の英語による講演も行われ、また、山本学長の内容は2016年に本学医学部で研修したヤドチェンコ医師がロシア語に翻訳をしました。講演には300名以上の学生・教授らが熱心に耳を傾け、両大学にとって実のある交流の場が図られました。

第2回 秋田ものづくりオープンカレッジ in 秋田大学

10月26日、「第2回秋田ものづくりオープンカレッジ in 秋田大学」を開催しました。このイベントは、学生に県内にはどのような企業があり、将来どのような分野の仕事に携わることができるかを考えてもらうための場として、秋田大学と秋田県が主催し、公益財団法人あきた企業活性化センターが共催しました。

第1部の「あきたの元気なものづくり企業展」では、手形キャンパス内の大学会館特設会場に、県内ものづくり企業32社がブースを出展し、企業紹介や自社で開発・製造した製品の紹介などを行いました。来場者は約200名であり、ものづくりに興味のある多くの学生や一般市民の来場もあり、学生らは実際の製品に触れながら企業担当者の説明を熱心に聞き入っていました。

また、第2部の「世界にはばたくものづくり講演会」には、学生や県内の企業者ら約100人が出席し、講演が行われました。はじめに、パラマウントベッド株式会社・取締役営業総括部長の坂本郁夫氏が「医療・介護機器の動向、および医療・介護機器参入へのポイント」と題し、自社の業績の推移とマーケットの変化、製品開発における企業連

携の重要性、介護現場で課題解決に取り組んできた事例、および今後の業界マーケットの方向とその対策などを紹介しました。つぎに、株式会社アクトラス・代表取締役の眞田慎氏が「県内企業の医工連携の取り組みについて」をテーマとして「自社の開発し、県内企業として自社で開発し、実際の現場で使われている医療機器の開発秘話などを紹介しました。講演後に行われた質疑応答は、終了予定時間を超過するほど活発に行われ、参加者にとって非常に有意義な会となりました。



来場者でにぎわう各企業のブース

株式会社 松田
株式会社 湯沢生コン
地域の発展とともに
松田グループ
● ● ● ● ● ●
株式会社 丸栄建設
株式会社 出羽運輸
株式会社 エイコウ物産
【本社】湯沢市字鶴館 39-4
TEL : 0183-73-0188
URL : <http://www.matsuda-group.jp/>

私達は、常にお客様の信頼と満足を目指し、より質の高い工事とサービスを提供します。

ISO9001:2015 認証取得
能代電設工業株式会社
http://noden.jp/
〒016-0801
秋田県能代市浜通町1-45
TEL 0185-54-4249

地域を支える企業を目指して
豊かな自然と、豊かな未来を。

丁酉会は、秋田大学病院の患者、職員及び学生への便宜供与に関する事業を行うとともに、医学研究の奨励助成を行い、患者等の利便と医学振興に寄与します。

病院での生活を、もっと便利に、快適に
一般財団法人 丁酉会
保険調剤
てい ゆう かい
丁酉会薬局
秋田大学病院前

「地域連携プロジェクトゼミ」報告会

11月2日、教育文化学部地域文化学科において「地域連携プロジェクトゼミ」の報告会を開催しました。地域連携プロジェクトゼミは、地域の事業所等の協力を得て地域と大学が一体となり学生の社会人基礎力を育む試みであり、平成29年度は、41名の学生が17実習先で社員の方々と協働して業務に携わり、また、課題に対する解決策の企画などに取り組んできました。

この日は、3グループからそれぞれの実習先での活動報告があり、その中で3年次の小松星也さんと佐々木麻美さんから、「学生が新聞に何を求めているか」「新聞を読まない学生がなぜ増えたか」をテーマに、地元新聞社などで実習を行ってきた内容について発表がありました。2人からは「意識調査では、今は新聞を読んでいないが潜在的に必要性を感じている学生が4割以上はいる。実習では、どのような宣伝・アプローチができるかなどを討論してきたが、大学内のインフォーマーシヨンセンサーなどで定期的なカフェ形式でニュースを語り合うというアイデアも一例としてあるのではないかと提案がなされました。」



報告会の様子

秋田大学では、地域の求める人材・地域貢献型人材の養成を目指した地域連携プロジェクトゼミを平成28年度からスタートしており、この日は、平成29年度のプロジェクト報告会の第1回目となりました。

国際資源学部説明会

11月18日、国際資源学部の特色や平成30年実施のAO入試のことなどについて理解を深めていただく機会として、大仙市で「国際資源学部説明会」を開催しました。

佐藤時幸国際資源学部長の開会挨拶後、柴山敦教授が学部や入試の概要について説明を行うとともに、高校の授業とは違った雰囲気を感じていただくよう、実際に行われている授業を「模擬授業」として開講しました。

また、資源地球科学コースの4年次の高橋亜由美さんは、自身のキャンパスライフを紹介し、「3年次で経験した海外資源フィールドワークでは苦勞した面もあったけれども、精神面の成長や英語で

のコミュニケーション能力が身についたこと、また、自分のやりたい専門領域が分かったことよって、その後の研究配属や進路を決定するきっかけのひとつとなった」と話



学部の概要について説明する柴山教授



先輩学生によるキャンパスライフ紹介(資源地球科学コース4年次、高橋亜由美さん)

第3回 秋田大学ホームカミングデー

10月14日、秋田大学の卒業生を対象に、「第3回秋田大学ホームカミングデー」を開催しました。このイベントは秋田大学全学同窓会及び各学部同窓会の協力のもと実施され、これまで学部単位で実施されていたものを平成27年度に全学的な取り組みとして開催し、今回で3回目となります。

記念講演会では、はじめに山本文雄学長の挨拶と、同窓会を代表して秋田大学全学同窓会兼医学部保健学科同窓会「本道さくらの会」の坂本健将会長が挨拶。続いて、由利本荘市教育委員会の佐々田亨三教育長が「教育文化学部の躍進」、社会医療法人厚生会多治見市民病院の今井裕一病院長が「母校秋田大学に期待すること」、株式会社富士インダストリーの吉田大作顧問が「大学生活の思い出」と題し、学生時代のこと、秋田大学を卒業して感じたことや秋田大学に期待することなどについて講演。当日は、参加者が100人を超え、会場が満員となるなど大盛況となりました。

引き続き、会場を移動して行われた交流会では、学長をはじめ役員・教職員や学生も参加し、先輩である同窓生の当時の思い出話などを交えながら、にぎやかな歓談、情報交換が行われました。



挨拶する山本学長

同窓会を代表し挨拶する全学同窓会の坂本会長



記念講演会(左上から時計回りに佐々田教育長、今井病院長、吉田顧問、全体の様子)



交流会の様子

秋田大学広報課 公式Twitter

秋田大学の旬な情報を随時お届けしています。



秋田大学広報課 ツイッター 検索



各種イベント情報も発信しています。

ヒトには 創れないモノがあるから。 いつからだろう 四季の移ろいを あたり前のように 感じられなくなったのは いつからだろう 自然の恵みに抗いはじめたのは 後悔しても 人には創れない なつかしい風景のために 自然と私たちのあたり前の関係を 維持するために さあ、いっしょに循環型社会へ

ユナイテッド計画株式会社
 United 本社/〒018-1414 湯上市昭和豊川槻木字槻13-1
 TEL:018-877-3027 FAX:018-877-3986
 リサイクルワークス秋田事業所/TEL:018-864-0668 FAX:018-864-0680
 リサイクルリンクヒルズ湯上事業所/TEL:018-877-5770 FAX:018-877-5794



おいしい魚を世界の海から食卓へ
丸水秋田中央水産
 代表取締役社長 鈴木信夫
 秋田市外旭川字待合 28
 TEL 018-869-5311(代) FAX 018-868-1931

イベント&講座・講習会

Event, Seminar, Workshops & Extension course

催し物

文部科学省「多様な新ニーズに対応する『がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)』養成プラン」採択プログラム

秋田大学 未来がん医療 プロフェッショナル養成プラン講演会

「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」を養成する本事業の内容について講演します。

- 1月28日(日)秋田ビューホテル(秋田市中通2-6-1)
- 3月10日(土)秋田拠点センターALVE(秋田市東通仲町4-1)
- 対象/どなたでも
- 参加費/無料
- ☎018-884-6261(秋田大学がんプロ事務局)

教育文化学部天文台イベント

天文サイエンスカフェや大学教職員による天文講演会、45cm反射望遠鏡を使った夜間天体観測会を実施します。

- 2月3日(土)15:30~18:00
- 3月3日(土)16:30~19:00
- 4月7日(土)17:00~19:30
- 教育文化学部3号館3階301地学実験室ほか
- 対象/どなたでも (夜間観測会は中学生以下は保護者同伴)
- 参加費/夜間観測会は保険料1人50円
- ☎018-889-2655(教育文化学部地学研究室)

秋田大学国際資源学教育研究センター(ICREMER)主催

第12回 国際シンポジウム 「南部・東アフリカ資源学最前線」

南部・東アフリカにおける資源開発に関する講演及びICREMERの取り組みを紹介します。

- 2月21日(水)13:00~
- 筑波大学東京キャンパス (東京都文京区大塚3-29-1)
- 対象/どなたでも
- 参加費/無料
- ☎018-889-2810(国際資源学教育研究センター)

一般入試(前期日程・後期日程)入学者選抜日程

平成30年度一般入試(前期日程、後期日程)を以下の日程で実施します。詳細・募集要項の請求については、秋田大学公式ホームページ→入試情報をご覧ください。

- 出願期間/(前期日程・後期日程)平成30年1月22日(月)~1月31日(水)【必着】
- 試験日/(前期日程)平成30年2月25日(日)(医学部医学科のみ2月25日(日)、26日(月)) (後期日程)平成30年3月12日(月)
- ☎018-889-2256(入試課)



秋田大学受験生ポータルサイト▲

平成29年度 秋田大学卒業式

- 3月22日(木)10:30~
- 秋田県民会館(秋田市千秋明徳町2-52)
- ☎018-889-2207(総務企画課)

平成30年度 秋田大学入学式

- 4月5日(木)10:30~
- 秋田県民会館(秋田市千秋明徳町2-52)
- ☎018-889-2207(総務企画課)

表紙は

肉眼でははっきり見えない、小さな鉱物を見る際に使用するルーペ。国際資源学研究所附属鉱業博物館では、大小様々な鉱物をはじめ、岩石・化石など約3,300点の標本を見学できます。

表紙撮影に使用した亜鉛孔雀石は、鉱業博物館に展示していますので、興味をお持ちいただけましたら、ぜひお越しください。



表紙鉱物:亜鉛孔雀石(メキシコ産)



秋田大学みらい創造基金

ご協力をお願い申し上げます。

「秋田大学みらい創造基金」は、全学的な事業を支援する「一般基金」と、用途を特定した「特定基金」で構成され、現在、企業・団体や個人の皆様など多くの方々にご支援をいただいております。この基金は、教育・研究による社会への貢献という本学の使命を果たすための大きな支えとなっており、今後一層の拡充を図りながら、有効に活用させていただきます。

みらい創造基金による事業紹介

秋田大学「新入生育英奨学資金」の設立(一般基金)



平成26年度に解散した財団法人土崎感恩講より経済的困窮学生支援の目的でいただいた寄附金を財源として、平成30年度から新たに、学部新入生を対象とした秋田大学独自の給付型奨学金制度「新入生育英奨学資金」を設立します。給付額は1人10万円(入学料免除許可者については5万円)となります。

詳細は、「平成30年度 一般入試学生募集要項」に掲載していますので、申請を希望の方は募集要項を確認して下さい。一般入試以外を受験する方へは、入学関係書類送付時に案内をお送りします。

※財団法人土崎感恩講は、1830年に現在の秋田市土崎の有志161人が私財を持ち寄り、窮民救済を目的に設立された法人。平成26年に解散。

学生海外派遣支援事業(一般基金)

秋田大学の協定校へ交換留学する学生に、往復に要する国際線の航空運賃の一部を補助しています。平成29年度は中国、アメリカ合衆国、カナダに留学する4名に対し支援を行う予定です。

「寄附者ご芳名」この基金の趣旨にご賛同、ご協力いただきました皆様へ、心より感謝申し上げます。今後とも秋田大学の教育・研究活動等に対し、格段のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

企業・団体等	●秋印 株式会社 様	●秋田大学有志一同 様
個人	●浅田 昌弘 様	●小松 智子 様
	●石川 勉 様	●齋藤 克巳 様
	●市川 逸郎 様	●坂谷 弘之助 様
	●猪股 祥子 様	●佐川 喜一 様
	●梅田 祐吉 様	●佐々木 勝利 様
	●大川 功 様	●佐々木 順孝 様
	●小笠原 靖 様	●佐藤 弘樹 様
	●加藤 直子 様	●佐藤 佑樹 様
	●工藤 絹子 様	●島田 勝美 様
	●國吉 幸男 様	●進藤 力三郎 様
	●小玉 史男 様	●菅原 智子 様
		●鈴木 邦彦 様
		●高久 臣一 様
		●田中 竜太 様
	●田村 康樹 様	
	●長瀬 達也 様	
	●長田 信夫 様	
	●成田 正英 様	
	●西 健太郎 様	
	●西山 広明 様	
	●松本 敏江 様	
	●米山 奈奈子 様	

他 匿名希望 24名様 (延べ数) (平成29年8月~平成29年10月末入金分) 五十音順

〈古本募金のお願い〉

読み終わった書籍(CD・DVD等を含む)を本学の提携業者が買い取り、その売却代金をご寄附いただく「古本募金」をぜひご活用ください。5冊以上から送料無料でご指定の場所に集荷に伺います。ご希望の方は、下記にお電話いただくか、秋田大学ホームページからお申し込み下さい。

株式会社バリューブックス ☎0120-826-292

(電話受付時間 10:00~21:00 日曜は17:00まで)
※「秋田大学みらい創造基金「古本募金」の申込」とお伝え下さい。

- 〈ご寄附のお願い〉 ●個人の方: -□ 1,000円
●法人の方: -□ 10,000円

この基金の趣旨をご理解いただき、なにとぞ複数口のご協力をお願いいたします。また、継続的なご寄附もお待ちしております。寄附者様のご都合に合わせた寄附方法・金額の設定が可能ですので、詳細は基金事務室へお問い合わせください。

- 〈ご寄附の方法〉 ●振込によるご寄附 ●クレジットカードによるご寄附
●古本募金によるご寄附 ●遺贈によるご寄附

寄附のお申し込み、詳細につきましては、秋田大学公式ホームページをご覧ください。基金事務室までお問い合わせください。

一般基金

大学全体の活動を広く支援する基金です。6分野の事業に活用いたします。

- ①教育の質の向上及び研究の推進支援
- ②学生への奨学金等支援
- ③教職員・学生等の国際化・文化・社会活動等支援
- ④卒業生・産業界等との連携支援
- ⑤学部等への支援
- ⑥施設・環境整備の充実

特定基金

- ★ 病院寄附金
- ★ 国際資源学部寄附金
- ★ 教育学部寄附金
- ★ 医学部寄附金
- ★ 理工学部寄附金
- ★ 附属学園寄附金
- ★ 修学支援事業寄附金

〈お申し込み・お問い合わせ先〉

秋田大学みらい創造基金事務室 〒010-8502秋田市手形学園町1番1号
☎018-889-3266(総務企画課内) kikin@jimu.akita-u.ac.jp

秋田大学みらい創造基金は秋田大学公式ホームページからお申し込みいただけます。
(http://www.akita-u.ac.jp/honbu/ed_fund/index.html)